

国際会計基準（IFRS）に関する取組み （国際的な会計人材の育成等）

公益財団法人財務会計基準機構

2017年9月8日

（本資料中の意見に係る部分は、発表者の個人的見解であり、公益財団法人財務会計基準機構の公式見解ではありません。）

国際会計人材ネットワーク(1)

- 国際会計人材ネットワークの構築の目的については、金融庁資料を参照のこと。
- 当財団に設置した「国際会計人材プールに関する検討会」において、登録者の選考方法等を検討した上で、関係する各団体のご協力を得て登録者の選定を行い、2017年4月27日に登録者リストを当財団のウェブサイトで公表した。直近の登録状況は、以下のとおりである。

	企業の役員・従業員	公認会計士・監査法人勤務者	証券アナリスト	基準設定主体の委員・研究員	官庁の行政官	学識経験者	合計
2017年4月27日	55名	642名	17名	28名	11名	0名	753名
2017年8月1日	68名	642名 (4月27日現在)	19名	30名	12名	1名	772名

国際会計人材ネットワーク(2)

- 国際会計人材ネットワークへの登録ガイドラインは、以下のとおりであり、関係する各団体等において、ガイドラインを踏まえて選定を行っている。また、当財団のウェブサイトからも、リストの登録の申し込みが可能である（当財団で登録の可否を判断。）。
- 共通のガイドライン：英語でそれぞれの業務を行える語学力を有する者
- 各区分におけるガイドライン

区分	ガイドライン
企業の役員、従業員	① IFRS・米国基準に関する財務諸表作成等、国際的な会計実務の実績を持つ者、又は、国際的な会計実務に関する知見を有する者 【かつ】 ② 課長相当職以上
監査人	① IFRS・米国基準に関する監査(子会社含む)、解釈、導入支援業務の実績を持つ者、又は、IFRSに関する知見を有する者 【かつ】 ② 監査法人のマネージャー相当職以上
アナリスト	IFRS・米国基準に関する財務諸表分析の経験者、又は、IFRSに関する知見を有する者
会計基準設定主体の委員、研究員	企業会計基準委員会において国際的な会計基準の開発に関与している者
官庁の行政官	海外の会計関係会議・組織への参加経験者

国際会計人材ネットワーク(3)

- 第1回シンポジウム「国際的に活躍できる会計人材をめざして」
 - 2017年7月10日に開催、約320名のリスト登録者等が参加
 - パネル・ディスカッション
 - ・ 「国際組織でどう活躍し、キャリア形成に活かすか」
 - ・ 「求められる国際会計人材像」
 - シンポジウム後、交流パーティーを開催
 - 今後の活動等に関するアンケートを実施

- 今後、定期的に、ネットワーク登録者のニーズを踏まえ、各分野の垣根を越えた交流、国際会議の場で活躍している人材との交流や、IFRSの最新の動向等について共有する機会の提供等を実施していく予定である。

会計人材開発支援プログラム(1)

- 当財団は、中長期的な国際的な会計人材の発掘・育成を図るため、2012年より会計人材開発支援プログラムを開始し、これまで以下のとおり、実施している。
 - 第1期（2012年1月～2013年12月）
作成者9名、利用者8名、監査人17名 計34名
 - 第2期（2014年5月～2015年12月）
作成者8名、利用者4名、監査人10名 計22名

- 第1期および第2期のプログラムの受講修了者については、IFRS財団の諮問会議の副議長1名、IASBのスタッフ（在ロンドン）2名、ASBJの専門研究員6名、ASBJの専門委員会の専門委員9名が輩出されているほか、多くの受講修了者が各団体の会計基準設定に関連する活動に参加されている。

会計人材開発支援プログラム(2)

- 現在、第3期プログラムを実施中である。
 - 2016年10月～2017年9月 作成者8名、利用者3名、監査人4名 計15名
(人数を絞るとともに、1年間のプログラムとしている。)
 - IASB等の組織の活動に直接参加し、議論・意見発信できる人材に将来的になりうる層の拡大を図ることを目的としている。
 - 会計基準に関する講義、国内外のIFRS関係者との意見交換等を22回開催する予定である。

- 現在、第4期会計人材開発支援プログラムの計画を立案中である。
 - 2018年1月に開講することを予定している。
 - 国際会計人材ネットワークとの連携を検討している。

IFRS財団・財務会計基準機構ステークホルダーイベント

- 東京でIFRS財団のトラスティー会議が開催されたことに合わせ、2017年5月24日に、IFRS財団と当財団の共催によるステークホルダーイベントが、以下のプログラムで開催された。
 - 開会の挨拶
IFRS財団評議員会議長ミッシェル・プラダ氏
 - ご挨拶
副総理兼財務大臣・金融担当大臣麻生太郎氏
 - 基調講演 「Disclosure for Constructive Dialogue with investors」
國部毅氏（株式会社三井住友フィナンシャルグループ取締役執行役社長）
 - パネル・ディスカッション 「財務報告書作成者と投資家との間の建設的な対話」
モデレーター：熊谷五郎氏（みずほ証券株式会社市場情報戦略部上級研究員）
パネリスト：ハンス・フーガーホースト氏（IASB議長）、増一行氏（三菱商事株式会社代表取締役常務執行役員CFO）、大場昭義氏（日本証券アナリスト協会会長）、関根愛子氏（日本公認会計士協会会長）及び小野行雄氏（ASBJ委員長）

